



発行 / (公財) 広島市文化財団 文化事業部 事業課
〒730-0812 広島市中区加古町4-17 JMSアステールプラザ内
TEL082-244-0750 FAX082-245-0246
Eメール bunka@cf.city.hiroshima.jp
ホームページ http://www.cf.city.hiroshima.jp/bunka/
編集・印刷 / 大村印刷株式会社
表紙イラスト / 田中 聡

to you

ひと・こえ

まずは美しさを、
そして作り方を知って
親しんでもらいたい。

七宝作家の両親のもとに育った栗根仁志さん。新しい技法を開拓するなど、その実力は伝統工芸界でも広く認められています。

■古くから身近な工芸品

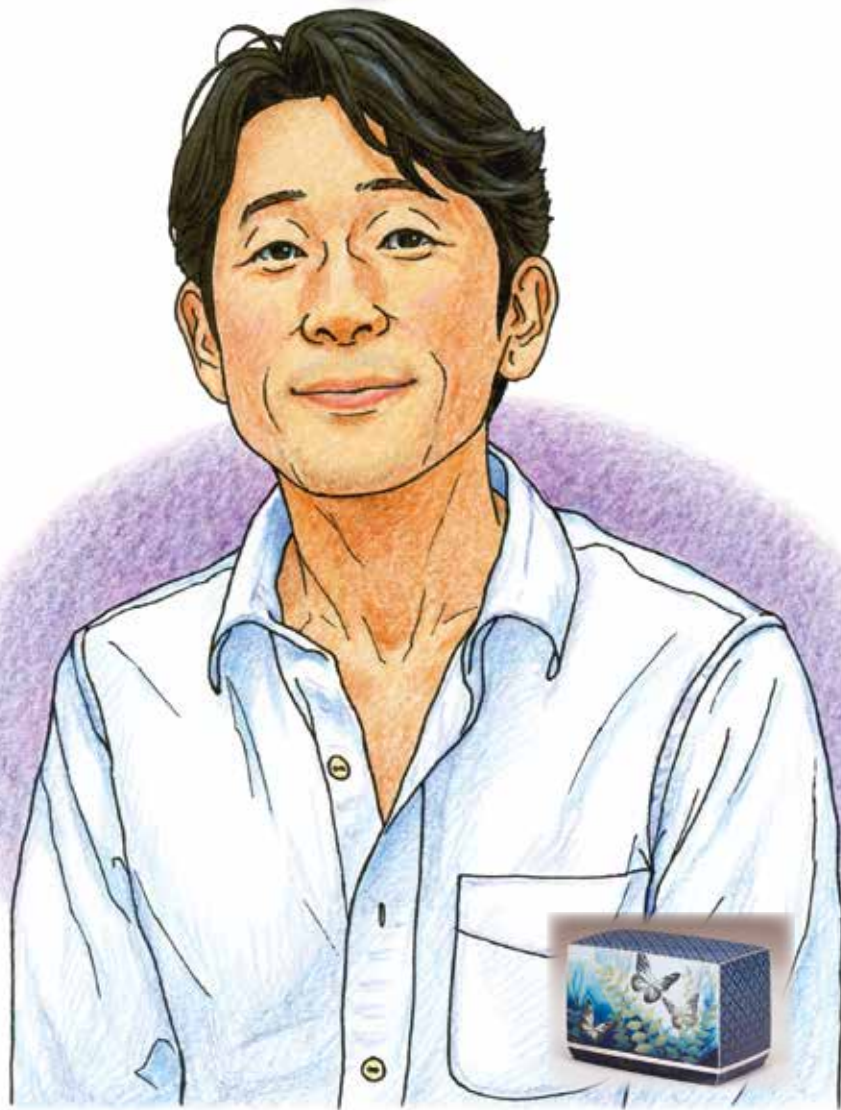
七宝焼とは、銅や銀など金属の土台にガラス質の釉薬を焼き付けたものです。作り方はホーローと原理は同じです。ホーローが日用雑貨なら、七宝焼は美術工芸のイメージ。現代ではアクセサリを思い浮かべる人が多いと思いますが、建具の釘隠しや刀の鐔(つば)など桃山時代から日本人の暮らしを美しく飾ってきました。広島市内でも旧広島市婦人教育会館の壁画に使われていたこともあったんですよ。

■難しいから面白い

工芸全般に言えますが、一つ一つの工程を丁寧に積み上げていくことが大事です。作りながら途中で調整すればいいやというわけにはいきません。例えば色。七宝焼はいろんな色の釉薬を使います。白色だけでもいろんな素材の釉薬があり、透明・半透明・不透明など特性を理解した上で塗り重ねていきます。焼かないと結果がわからないし、作り直しもできません。色を使いこなすのはもちろん、思い通りの作品が作れるようになるまでに20年はかかると思います。焼き付け工程もほんの数秒の違いが劇的な変化を生むので、炉の中の変化を見極めるのも難しい点です。どこか人間の手に負えない部分があり、そこが難しく面白いです。

■金工・漆・絵画が融合した新しい七宝

両親が七宝焼の作家だったので、七宝焼は幼いころから身近にありました。父に七宝焼は壺など丸い土台しか使わないと教わり、ならば角のある七宝焼を作りたいと思い、人間国宝の山本晃先生の元で金工の修行をし、角のある土台を自作するようになりました。高校を卒業後、漆を勉強し、その傍ら絵画も描いていました。今、それらの経験は作品作りに役立っています。中国七宝協会展では、この道何十年のベテラン作家からセミプロ級の愛好家の力作を約60～70点展示します。制作工程も紹介するので、ぜひ多くの方に親しんでいただきたいです。



栗根仁志さん(あわね・ひとし) 七宝作家、日本伝統工芸展の監査委員、伝統工芸部会展鑑・審査委員

1968年広島市生まれ。1991年香川県漆芸研究所修了。2004年文化庁 新進芸術家国内研修員 截金人間国宝 江里佐代子氏推薦により彫金人間国宝山本晃氏に金工を学ぶ(2004年6月～2005年3月)。2014年式年遷宮記念 神宮美術館 特別展「静一歌会始御題によせて」招待出展 七宝箱「静韻に舞う」を伊勢神宮に献納。2015年第62回日本伝統工芸展の監査委員、第25回伝統工芸部会展の鑑・審査委員に就任。

展覧会 第36回中国七宝協会展

中国地方で活躍するベテランからセミプロの作家約30名の作品を展示。壺や合子(ごうす)などの立体作品、1mを超す平面作品の大作など、七宝焼だけで構成される見ごたえ充分な展覧会。

時 / 9月26日(火)～10月1日(日)

会 / 広島県立美術館 県民ギャラリー第2室

料 / 無料

問 / 中国七宝協会(栗根) TEL.082-273-5878

